

博学連携による博物館学習の推進に関する研究

—博物館と学校との実質的な連携による推進体制の構築について—

千葉県立中央博物館 主任上席研究員 一場 郁夫

■博学連携から20年

- 今、博物館は、学校教育でどのように利用されているのか？
- 博学連携による教育効果はどうなったのか？
- 学校（教員・子ども）の博物館の利活用能力（博物館リテラシー）のレベルは向上しているのか？
- 博物館としての役割は何なのか？

■博物館利用の現状

（1）放任的な自由見学

主体性という名もとのグループによる自由見学で、リーダーにせかされて館内をかけ巡る利用

（2）課題を持たない見学活動（物見遊山）

見学の視点がないために、目的意識がなく、展示資料を眺めて回るだけの利用

（3）博物館の教育プログラムへの「丸投げ」

博学連携という名のもとに博物館側が作成した教育プログラムへのお任せの利用

■はき違えられた博学連携

学校教育に対応させた博物館事業

- ・学校向けの企画展（小学校3学年社会科「昔の暮らし」）の開催
- ・学習用資料（ワークシート）の作成
- ・教育プログラムの提供
- ・アウトリーチ（出張授業・移動博物館・貸出資料）の提供

➡博物館側からの一方向的な教育サービスの提供

学校側からの「何か（体験できるプログラムは）ありませんか？」の依頼への対応⇔それが連携？

■実質的な博学連携とは？

共同の連携から協働による融合へ

共同⇔プログラムを共同で行う。

協働⇔Give&Takeの連携事業（双方にメリットがあり無理のない事業展開）

- ・博物館研究員の専門性【専門的な知識・技能・最新の研究成果】
- ・学校教員の専門性【指導方法・教科書の学習内容・子どもの実態把握（視点）】

実質的な博学連携⇔双方の専門性の情報共有⇔教育機能の向上⇔博物館リテラシーの向上

■停滞している博学連携

これを打開するためには、

博物館と学校との実質的な連携体制の構築が必要

そのためには、

研究員と教員との連携（博学連携）による教材研究と支援に基づいた博物館学習の推進が効果的

⇔研究員と教員との協働意識による「やあ、どうも！」の人間関係作りが基本

1. 博学連携による博物館学習

博学連携とは、博物館の研究員と学校の教員が、子どもの「生涯学習社会に対応した力」（博物館の利活用方法や博物館の見方・考え方）を育成するために、相互の教育機能を活かして連携した教育活動を行い、学習効果を高めるためのシステムである。

博物館学習とは、学校の教科・領域の学習内容と博物館の展示資料との関連性を持たせて、博物館で効果的な学習活動を行うことで、展示資料による実感を伴った学習活動を行うものである。

このことから、「博学連携による博物館学習」を実施するにあたっては、博物館側として次のような対応を行うシステムを設定したい。

2. 博物館学習対応のシステム

- (1) 教育普及課への団体見学申込時に博物館学習の説明を聞く。
- (2) 博物館のWeb上の「学校団体」から「博物館学習」を見る。
- (3) 博物館学習を希望する場合は、教育普及課に連絡する。
Web上の「博物館学習対応シート」に必要事項を記入しFAXする。



①博物館学習のコーディネーター

- (4) 博物館を予察する。【博物館のサポート1】

①教育普及課職員と博物館学習の方法について協議する。

博物館学習のコーディネーター【写真①】

「博物館でどのような学習ができるのか。」・「どのように学習させればいいのか。」などの博物館学習の内容と方法について、教育普及課職員が説明を行う。

②研究員と展示室等において教材研究をする。

教材研究のサポート【写真②】

「展示資料の解説を聞いて教材研究をしたい。」という教員の要望に対して、研究員が可能な範囲で対応する。

- (5) 事前学習及び指導をして博物館に行く。【博物館のサポート2】

○研究員による児童生徒への学習支援

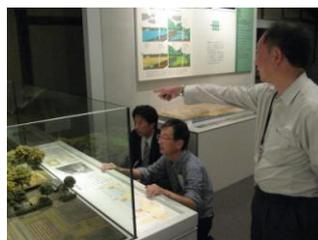
展示室でのサポート【写真③】

「展示室で子どもたちに支援をしてもらいたい。」という教員の依頼に対して、研究員が可能な範囲で対応する。

- (6) 事後学習をして博物館学習の深化を図る。

①調査内容の発表会

②感想文・意見文・新聞作成等



3. 研究の成果と課題（今後の展望）

- (1) 成果

②教材研究のサポート

③展示室でサポート

○博物館の受入体制の整備と関係者の意識化

学校からの依頼に対応する博物館学習の受入体制が整備され、実践を通して関係する研究員や教員の博物館活用に対する意識化を図ることができた。

○研究員と教員の専門性の融合化

博学連携による博物館学習の実践を通して、研究員と教員による専門性に基づく情報が共有され、相互の指導力の向上につながった。

○学校（教員・子ども）の博物館活用レベルの向上化

博物館での教材研究を通じた博物館学習の実践により、博物館における教員の指導内容と子どもの学習内容の質的な向上がみられた。

- (2) 課題

●博物館内での意識の共有化（温度差解消）

全研究員が同じ教育観に基づいた博学連携に対する意識の共有化は、組織が大きくなるほど難しくなる。しかし、地道な取組とアプローチにより意識の温度差を解消していきたい。

●学校教育に対応した展示室の改善

学校による主体的な博物館学習を展開するためには、研究員の解説を受けなくても理解できる展示資料と利用しやすい学習環境が必要になってくる。

●博物館学習の効率的な推進体制の再構築

現在の博学連携による博物館学習の推進体制は、研究員のサポートによる比重が大きい。今後は、教材研究用の資料としての博物館学習プログラムを整備し、学校の主体的な活用体制へとシフトを転換していくことが求められる。